

Actions アクションズ

若手医師活動報告

札幌医科大学附属病院での 職員のこども予防接種について

札幌医科大学小児科

春日 亜衣

札幌医科大学附属病院で行っている職員のこども
予防接種についてお知らせします。

札幌医科大学女性医師等就労支援委員会は、2019
年12月から職種問わず全職員を対象とした職員のこども（未就学児）予防接種事業を始めました。

病院小児科の協力を得て、第1 / 3月曜日15:30~16:00予約制で行っています。既存のスタッフで対応しておりますので、残念ながら規模が大きくなるインフルエンザ予防接種には対応できませんが、生後2・3ヵ月からのヒブ、肺炎球菌、B型肝炎、ロタウイルス、4種混合ワクチン、職場復帰している方も多いと思われる1歳から接種の麻疹風疹、水痘、ムンプスワクチンなどの接種を行っています。札幌医科大学附属病院は初診料が高いのですが、この事業に関しては病院初診料をいただきません。

「こどもの発熱で急な休みをとることもあるのに、元気な時に予防接種のために休みづらい（これはwithコロナ時代NG?）」「就学前にも予防接種があるのをすっかり忘れていた」。そんな職員に、接種へのアクセスを良くすることでお子さんの予防接種をしっかりと行ってもらおう。そうすることでお子さんのみならず職員家族全員の感染リスクを下げ、職員により良いパフォーマンスをしてもらうことにつながるのではないかと考えての事業です。

全職員性別問わず対象にしておりますが、病院近くに住んでいたり、育児休業中も大学に出入りしていたり…というシチュエーションが考えやすい若手の女性医師（男性医師でも全くかまわないのですが!）がメインターゲットになるかと思います。

どれほどの需要があるか手探りで事業開始でしたが、大学や看護師更衣室、医局棟などに宣伝ポスター（図1, 2）を掲示したところ、現在までに複数の職種の方から連絡があり、接種を行っています。

0~1歳台のお子さんを持つ、育児休暇中や休暇明けのお母さん（お父さんでも構わないのですが!）の来院がやはり多いようです。接種を担当している私の方も若いお母さんたちに最近の乳児育児事情や新しい制度を教えてもらって思わぬ効果を得ています。

COVID-19の流行後、行動を狭い範囲にする意識が高まったのか、接種依頼が増えました。想定外のことでしたが、この時代において、職員とその家族の健康を維持し、重要なマンパワーを供給する一助になったとしたら、思いがけない形でお役に立っているのかもしれない。しばらくは現在の形での活動を継続する予定です。

全国の大学病院で子育て中職員に対するさまざまな支援事業は行われているものの、院内での予防接種対応は珍しいようです。

この事業が、若い世代の医師・医療者がより良い仕事をしていく後押しになったら、もう若手とはいえない中堅の自分もとてもうれしいです。

接種希望の方は平日14:00-15:30に札幌医科大学附属病院小児科外来（011-611-2111, 内線34310）までお電話ください。新しくておしゃれ、とはいきませんが、感染症患者は少なく清潔な小児科外来でやさしいスタッフたちとお待ちしています（写真1, 2）。（残念ながら接種対象は札幌医科大学および札幌医科大学附属病院職員の方のみになります!）



札幌医科大学2001年卒。専門は小児循環器で胎児心エコーもしています。こども2人が小学生になり、嵐の休校期間が終わってみると、今までより時間があるのに気がつきました（気のせいかも）。この時間をこれからの医師生活にどう使うか、検討中です。

図1

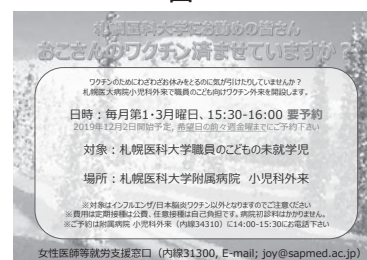


図2

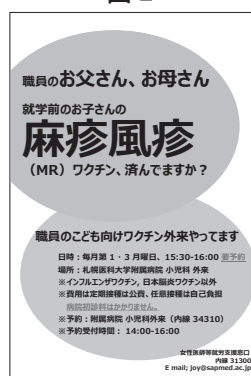


写真1



写真2